

第1分科会-②

介護支援専門員協会柏原支部の実践報告

個々の力と組織力

事例研究

多機関との連携

大阪府・柏原市

実践報告～全員参加型の支部活動を目指して～

職能団体 大阪介護支援専門員協会 柏原支部

主任介護支援専門員：神崎 トモ子

梅原 望 木村 真砂美 岡山 宏志 高梨 優

永井 佐智子 有元 修治 高田 和代

E-mail : houkatsu@kashiwara-shakyo.jp Fax 072-970-3200

施設またはサービスの概要

柏原支部では、職能団体としての高い意識と専門性を磨くことで、利用者や地域に貢献し、将来的に『地域包括ケアシステム』の協力機関になれるような『全員参加型』の支部活動に向かって動き出した。その活動報告をおこなう。

<取り組んだ課題>

柏原市は委託型包括支援センター1箇所、プランチ6か所で地域支援を行っている。保険者は随時相談にのってくれるフットワークの軽さが定評で、そのおかげか介護保険事業者連絡会が存在しないにもかかわらず、問題提起はされてこなかった。支部活動に対するニーズも表面に出てこなかった。しかし、介護保険制度を取り巻く環境は更に厳しくなり、ケアマネジメントの質を高めていかなければ、利用者から選んでもらえる支援者とはなれないだろう。とすれば、このような環境で満足していいのだろうか？と疑問に思うようになった。そこで個々の力を組織力として生かしていくための支部活動計画を立てて実践を始めた。

<具体的な取り組み>

1) 22年度支部活動計画の立案

- ・会員のスキルアップ
- ・支部の広報活動

2) 活動内容に対する意向調査の実施

3) 事例検討会の定期開催

- ・成年後見制度のケース
- ・認知症のケース
- ・ターミナルケア
- ・医療連携のケース

4) 研修会の開催

- ・「ターミナルケアにおける医療と介護の連携」

5) 医療連携会議への共催

- ・名刺交換会への実現に向けて

6) 地域活動への参加

- ・社協主催の模擬店「焼き芋」の出店等

7) 市高齢介護課との親睦会

8) 未入会者への声かけ

<活動の成果と評価>

支部活動の実施にあたっては、アンケートによる意向調査を行い、できるだけ会員の意見を反映できるよう努めた。今年度より事例検討会を1回／2ヶ月開催したが、現職の居宅ケアマネの参加は約50%と事例を深めることの意識の高さがうかがえた。医療との連携に関しては、医師会・高齢介護課・包括の共同主催の定期研修会に共催として初めて参加し、職能団体としての役割の大きさを自覚した。知名度に関しては、模擬店での支部ポスターの掲示やチラシの配布などで、会員同士も行事を通じて交流を持つ機会が増え、目標を共有する仲間意識も膨らんでいる。

<今後の課題>

支部活動を行う上で何よりも担当者を元気づけたのは、会員からの『こういうことがやりたかった』という言葉である。学び合う場や高め合う機会は、これまでにも無くはなかった。結局のところ『実のある学び』は、良い仲間づくりから始まるのではないだろうか。私たちを支えるのは『手ごたえ感』なのだと思う。活動計画の中で、会報作りやホームページの立ち上げ、主任介護支援専門員部会の設立など、将来の夢は大きい。しかし支部活動を充実させるには、仲間の力が不可欠である。多忙な日常業務と支部活動の両立は、担当者の負担を大きくする。担当者の心身の健康や取り巻く環境にも配慮しなければならない。仲間同士との関わりからが第一歩の学びであると、今後のあり方を結論付けたい。

<参考資料など>

「対人援助のための事例研究の方法」：岩間伸之著